

令和2年度第6回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和3年2月12日（金）10：00から11：30まで
場 所	蒲郡市役所 303会議室（Web会議）
出席者	（委員）18名出席 ※別紙出席者名簿のとおり （事務局）子育て支援課：次長、主幹、課長補佐、指導係長、主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度第6回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・資料1 令和2年度第5回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録について ・資料2 「蒲郡市公立保育園のあり方について（保育園グランドデザイン）（案）」パブリックコメント募集結果について ・資料3 蒲郡市公立保育園のあり方について（保育園グランドデザイン）（案）について ・資料4 特定教育・保育施設の令和3年度利用定員について

議事：（進行）事務局 高橋晃市民福祉部子育て支援課長

- 学校教育課長（代理竹尾課長補佐） 欠席
- 健康推進課長（代理岡本保健師） 欠席
- 福祉課長（代理谷口主幹） 欠席
- 資料の確認

1 あいさつ

（渡辺会長） それでは、改めまして皆さんおはようございます。

今課長さんから説明がありましたように、たくさんパブリックコメントが寄せられたと聞きました。真摯に受け止めて蒲郡の未来を背負って生きる子どもたちのために、より良い環境、子育ての環境を作っていくように、さらに良い、グランドデザインになっていくことを願っています。今日は四つの議題を用意されていますが、オンライン会議ということで、初めての取り組みで、私も初めての体験で、語弊があるかもしれませんが、ちょっと楽しみな会議の形式だと思っています。それでは議事の進行をさせていただきます。

2 議題

（1）令和2年度第5回蒲郡市子ども子育て会議議事録について

質疑応答

（渡辺会長） まず、議題1、令和2年度第5回蒲郡市子ども子育て会議議事録についてを議題とします。何か修正点や、ご意見がありましたらお願いいたします。それではないようですので、次の議題に移ります。

(2)「蒲郡市公立保育園のあり方について（保育園のランドデザイン）（案）」パブリックコメント 募集結果について

（パブリックコメント募集結果について事務局白井から説明）

質疑応答

- (渡辺会長) ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、内容に対するご質問やご意見はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。これが市のホームページに掲載されるのでしょうか。
- (事務局高橋) 2月末から3月初旬頃を予定しておりますが、これは皆さんの意見でありまして、それに対して今白井の方で少し補足をしましたような市の考えというものを合わせて載せていくという形でございます。その意見を聞いた後で、最終的なランドデザインが確定してくるといような形に。私も意見の集約を見ておりまして、ランドデザインの内容の範囲の中で、お答えできる内容であると思っておりますので基本的に今まで検討いただいたこのランドデザインの案の内容で行きたいと考えております。
- (渡辺会長) ありがとうございました。このパブリックコメントの意見に対して、市が回答して、またそのことに対して意見があるということですか。
- (事務局高橋) 市の意見として内部でこれから協議をして、最終的に市の考えという形で、公表することになります。
- (渡辺会長) はい、分かりました。ありがとうございました。伊藤さんよろしくお願ひいたします。
- (伊藤委員) すごく率直な意見というか、いろんな意見を頂いて、こういう風に思われていることが分かりました。保育士は責任の重さと過酷とか、1ページ目の保育従事者について、民間経営者は儲けを確保するために給料を下げる、だから萎縮していくって、これはあたかも完全にそうであるとか、もしかしたらこの意見の方がそういう経験をされたのかもしれないけれども、ただ、これはあたかも事実かのように書かれておりますけれど、実は事実ではないのでは。この意見に対する回答でこのようなことばかりではないと、添えていただけると、ホームページに掲載されて皆が民間に対してそういうイメージを持たれるとさすがに、こちらもそんなことはしていないのにといものがあります。
- (事務局高橋) はい。そうですね。質問、意見を出される方は、やっぱり自分の当然、いろいろ考えの中で意見を出しています。これは要約したものなので、もう少しやわらかく書いてあったかもしれませんけども、ただ、要約するとこのような感じで、民間は給料を下げられてしまっ、負のスパイラルに陥っているという書き方をされていますので、別に民間すべてがそういう訳ではないといったことも加えた形でこちらの回答とさせていただきます。
- (渡辺会長) 資料1、1ページ目の下からの3つが、そういった書きぶりがどうかなのところですよ。この辺のところは、よく検討されて回答していただきたいと思います。
- その他はよろしいでしょうか。
- (山本委員) 説明があった4ページ目の別紙1と書いてあるのは何かご説明いただいたでしょうか。
- (事務局高橋) 4ページのところの真ん中辺にあります民間保育園・民営化のところの別紙1に対してのご意見で、別紙1では民間で運営した場合と公立が運営した場合、或いは建設した場合

の建築費、運営費の違いというものを示しておりますけれども、その中で市の運営費の負担について、地方交付税というものを市はいただいています。市全体の事業に充てるため、その中から市の保育園の運営費というのほどのくらい充てられているのか、区別ができませんといった書き方をしておりますけれども、それについて計算して欲しいといったご意見であります。これに関しましては、地方交付税というのは、実際、国から交付されるものになりますが、地方交付税の額を決めるにあたっては、色々な市の事業にかかる費用があり、教育費とか、・・商工費とかそういった市の財政、需要額があって、その一方で市への収入といったものもあります。需要額と収入額のバランスによって、交付税が毎年変わってまいります。もちろん財政豊かな町は不交付になるとか。交付税自体はいただいておりますけれども、その交付税をどれだけ保育園の運営費分に回しているのかというような算定は非常に困難です。地方交付税というのは一般財源と言いまして、色のついていないお金になります。補助金とか、そういうのは特定財源と言いまして、保育園運営費の補助金というのがあったとすると、それは補助金を頂いたら運営費に充てますということが分かりますが、一般財源として市の財源として何に使ってもいいよというような形で交付されるものになってくるので、もちろん市の収入というのは他にもありますので、そこから保育園の運営費にいくら充てたというような形で具体的に金額を算定するというのは非常に難しいと思っております。

(山本委員) そういうところを変えるということですね。

(渡辺会長) パブリックコメントに対しても、そういうことでいいですか。今のような答えをしてくっていい。

(事務局高橋) そうです。はい。そのように今考えております。

(山本委員) 私はなんとなく交付税は一般財源化されているものだとすることは分かりました。質問されている方は分かるかもしれませんが、なかなか難しいことであると思って聞いておりました。

(渡辺会長) それでは他にどうでしょうか。ありがとうございました。次の議題へ移ります。

(3) 蒲郡市公立保育園のあり方について (保育園グランドデザイン) (案) について

(前回からの変更点について事務局白井から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 事務局から説明がありました。ありがとうございました。何かこれについてありますでしょうか。字句の使い方のことですか、表を見やすくするというような説明があったと思いますが、大きく変わるのではないということですね。最後に、別紙2のところの説明をもう一度してもらってもいいでしょうかね。この下の2040年までのところで、低年齢児について対応していくと表に書かれている訳ですが、これはどういう風に考えたらいいですか。

(事務局高橋) 前回の会議で、審議していただきまして、低年齢児の受け入れを重点的に行う施設についてという言葉を入れさせていただくということで、まとめまして、それを図で表したのになります。

(渡辺会長) 例えば、低年齢児だけを保育していく施設、そういう感じで考えていくという前回の話のことですか。

(事務局高橋) はい。そうです。やはり、これから例えば、グラウンドデザインに基づいていた施設の更新だとか、保育サイドの提供をやっていくわけですけども、これは長期の資産で考えていく、グラウンドデザインとは、そういうものですけど、ただ今まさに0歳から2歳の低年齢児保育の需要がどんどん高まってきておりまして、これに今なかなか市の施設の中で、対応は追いついてないという状況もありますので、これについても、前回出されて、このグラウンドデザインの中で、課題として一つ加えさせていただいたものになります。このグラウンドデザインが行われる間にも低年齢児の運営を確保していかないといった課題として加えさせていただいたものになります。それを図の中にも表したということがあります。2つ施設の図があります。あくまで例でございまして、いくつということを決めているわけではなくて、あるいは区域も低年齢児の施設というのは区を区切ってということではなく、市内の必要な場所に点在するようなイメージというような形で図の方にも加えさせていただいております。

(渡辺会長) では、2つあるという意味ではなく、市全体で考えていくというように捉えていけばいいですね。はい。ありがとうございます。

何かご意見ありますでしょうか。はい。ありがとうございます。これで今年末に公表していく予定ということですので、よろしく願いいたします。

(4) 特定教育・保育施設の令和3年度利用定員について

(特定教育・保育施設の令和3年度利用定員について事務局白井から説明)

質疑応答

(渡辺会長) ありがとうございます。この定員の名簿について何かご意見がありましたらお願いいたします。

(事務局白井) 木船幼稚園につきましても、来年度、2号の利用者が増加したため、2号定員を76名に変更させていただきたいと考えております。

(渡辺会長) 木船さんも全体の利用人数は変わっていないということですね。

(事務局白井) はい。

(渡辺会長) 何かありますでしょうか。これは本当に子どもの人数に合わせての変更ということで、考えて良い訳ですね。では、ご意見ないようですので、これでよろしく願いいたします。ありがとうございます。

(5) その他

(渡辺会長) それでは次の3、その他に参りますが、何か全体を通してご意見それから、何か感想でもよろしいですので、何かありましたらよろしく願いいたします。

(七原委員) 資料3の第1章、一番始めのところ、3行目ぐらいに「家庭や地域の養育力が低下」とありますが、幼稚園で民間とかにも文字とかそういうのを教えたり、教育について、何か教えるみたいなことは、とらないのかなと前々から思っています。今、小学校の子どもが

いますが、そこでお母さんたちと話をしていると、もう学校の先生に全部任せな感じがします。家庭で勉強を教えるという感じが見られなくて、それで結構先生が負担なのか辞められる先生もみえて、幼稚園とか保育園の時期から、学校とか幼稚園で教えるという習慣があれば、少しは変わってくるのかなと前々から思っていました。そうすればやっぱり学校の授業についていけないから学校が楽しくないと思っているお子さんも増えているみたいなので、もう少し幼少期から、学習を身に着けるようなものがあつたら、もっと変わるのかなと、運動もそうなんですけど、毎日少しずつ同じことをやらせるというのがやっぱり大事だと思うんですけど、もう当たり前のように学習をさせるというのも、当たり前のように運動をさせる、朝来てすぐに保育園だと走らせるとかあると思うんですけど、それの一環として、当たり前のように数字をあれするみたいなのを入れていくだけでも、学習の能力アップに繋がるのではないかと、前々から言いたいと思っていたので、今日は最後に話させてもらいました。

(渡辺会長) ありがとうございます。七原さんに確認で、今のご意見はグランドデザインの文言に対してということではないということでしょうか。

(七原委員) そうです。

(渡辺会長) ご意見という形で伺っていくということですね。保育園で文字やある程度小学校を入学していくための前段階の学習ができないか、というそういうことだと思いますが、どうでしょうか。

(事務局金沢) 保育園では文字とかそういうのは、年長ぐらいの後半、中旬ぐらいから遊びの中で、文字を書いたり、読んだりするようにしています。数字も同じような感じで遊びの中での工夫はしていて、特に数字を教えるということはありません。子どもが育つ中で、保育園として大事にしていることは、やっぱり友達の間で、色々な経験をする、喧嘩したりとか、一緒に相談したりとか、一緒に考える、これってどうしてこうなるのかなとか。考えたりする中で育っていく力というのを身に着けていきたいので、わざわざそういう、じゃあ今から字書くよとか、数字で勉強しようねというような取り組みはしていません。体験をして覚えていくことが、生きる力になっていって、教えられてできることが、生きる力になっていかないっていうのかな、そういったところで保育園の考えとしては、遊びの中でそういった体験をして、友達が字書けるな、私もやってみようとか、友達と遊んでいて数字が必要だなというところで覚えていく、そういったような形でやっております。

(渡辺会長) あと、園長先生方、何かありますか。

(丸山委員) 府相保育園の丸山です。今、金沢主幹が言われたように、保育園では遊びの中で興味を持って、興味を持ったことを突き詰めていく、友達同士の関係も大事ですし、受け身よりも自分から探っていく、自分が興味を持ったことを深く追求していくことを大切にしているので、毎日机に座って、数字を書く、文字を書くということよりも生活の中から、文字、数字に親しんでいくということで、子どもが身に着けていくようにしています。今、中学校や小学校とのカリキュラムというか、色々見直しがされていて、小学校の方もスタートカリキュラムという形で、小学校自体もすぐに勉強じゃなくて、少し保育園の生活み

たいなのを取り入れてくださっているというようなのを耳にしています。先生方が辞めていかれるのは、子どもたちが勉強ができないから辞めてしまうのか、それともほかに理由があるのかなってというのがどうかなって思うところでもあります。

(河合委員) みどり保育園の河合です。難しいテーマで「教育とは何？」というところから触れなければなりません。金沢主幹、府相保育園の丸山先生がおっしゃった通り、基本的な幼児教育の定義として「子どもの遊びの中から興味を広げ、学びにつなげる事」とされています。子どもの興味を引き出すのが保育士の役割だと考えています。ただ、教育のイメージとして、机に座って、黒板に向かい、みんなで一斉に学ぶ授業風景を連想されると思いますが、幼児教育では、生活や遊びの中で、1・2・3と数えれば、数の概念を自然に学び、身に付けていきます。また、教育は0歳から始まり、積み重ねてきた子ども達の学びを小学校に繋げ、のびのびと自分の力を発揮できるように育みたいと思っています。具体的な保育活動は、子ども達の成長に合わせ実施されますので、各園の特色に繋がります。例えば、みどり保育園では、絵本や紙芝居などの一日一話の実施や、遊びの中に、英語、科学、体操、文字数を取り入れ、豊かな経験をすることで興味や関心を広げ、本園の教育目標の一つであります「自ら考える力」を育てています。いわゆる英才教育的な活動は取り入れていませんが、望ましい生活環境の中で、心身共に健やかに、その子に応じた成長を保証することが望ましいと考えています。

(伊藤委員) おそらくうちは、公立さんと真逆っていうとあれですけど、一斉保育ですので、みんなで一斉に文字を勉強する時間、英会話の時間、自発的に何かってというのは園庭の自由遊びというものもあるんですけど、子どもたちが受け身になって学習する時間も大切にしています。いろんな考え方がありますが、ただ、うちとしては興味を持って、何かやっていく形にしたいなともちろん、それも大事だと思いますけど、どうしても成長していくうちに興味を持つことだけでは、自分の興味だけでは生きていけないことも多々出てくる、そういう中では受け身になって学習していくことも、思い通りにならないことでも少し我慢して、学習すること、自分の自発的に興味を持つこと、バランスは両方大事と考えていまして、文字を勉強して、そこから習字の時間もあるんですけど、まあそういう意味では学校の学習的な要素というものはかなり強い幼稚園です。学校行くための訓練であると思っております。

(渡辺会長) ありがとうございます。今図らずも、蒲郡市立の保育園での考え方、それからみどり保育園での考え方、それから木船幼稚園での考え方、本当それぞれの良いところを言っていて、保育園によって違うというのが今伝わってきて、それに対して保護者の方がどの保育園を選ぶのかに繋がっているととても感じました。七原さん、何か追加でありますか。

(七原委員) ただ、小学校に行ったときに、すぐにみんな座ってということができない子も結構いて、私が一番上の子とか、すぐに動いてしまうのが見えて、やりたいことをやればいい、遊びの延長が長い感じで、注意しているせいで授業が進まないというのも聞いたことがある。言ったことが聞けなくて先生がちよっと言ったら親が「あの先生すごい怒るよね」とすごい噂で、その先生はちよっとうちの子曰く、「最近疲れちゃってて、かわいそう」

みたいな話は聞いてて、でも他のお母さんからは「あの先生はすごい、ちょっと」みたいな、そういう話になって、去年なんですけど、うちの子の担任の先生が辞められちゃったんですけど、その途中で退職されるにあたって、2年だったので九九をやっていたんですけど、この九九はどうやって覚えてって途中で投げ捨ててるお母さんがいて、自分のとこで教えるというあれはないのかなとか、そういうのも小さいうちから、保育園とかに預けているので、親が教えるあれがなかったのもう少しそういうのを幼稚園、保育園で取り入れてくれたりして、小学校の先生も負担が少しかわいそうだなと勉強になって、小学校の先生になりたい人が少なくなってしまうのかなみたいな、そんなイメージがあったんですけど、それで、小さいうちから勉強を身に着けていけば、子どもも座るとかそういうのは当たり前になっていくので、少しは変わってくるのかなと思いました。

(渡辺会長)

少し前まで教員をやっておりましたので、幼稚園や保育園できちんと養育して頂いて、学校にバトンしてもらっている、ありがたく思っておりました。やっぱり、保育園の先生も幼稚園の先生も学校に入学してくるってことは想定をしてくださって、子どもたちを導いてくださっているなということを思いました。学校としては、保育園や幼稚園で例えばひらがなを覚えてくるとか、数の足し算引き算といったそういうことを学んでくることが想定していなくて、最初1年生からひらがなを覚える、 $1+1=$ いくつになるか、合わせていくつとか、違いはいくつとか、すべての子どもたちが学んでいくようにカリキュラムは作られています。ただ、やはり今難しいことがあって、いろんなお子さんもいて、学校に入学してきたら、ちょっと保育園や幼稚園時代とは違うような姿を見せられるということもあって、少し私たち学校の教員もびっくりするような戸惑ってしまうようなこともあるのが事実なんですね。でもそれに対しては学校全体でお子さんを見ていくということで担任の先生も大変なご苦勞もしていると思うけれど、一樣、校長以下担任を持たない教員もたくさんいますので、フォローをして子どもたちを育てていく、教育していくというところにやっているわけですが、なかなか七原さんの話を聞いても、そういう事も現実として今あるという現状もありますので、またこのところは幼稚園、保育園と学校との連携をさらに密にしてもらって、その子の様子をまず知って、どういう風に教育していけばいいかというのはしっかり連携していけるといいかなと思います。学校の応援をしてもらっている様な感じでありがたいなって思っておりますが、そういう温かい目で見てくれるというのはとてもうれしいことです。ただここに書かれている、家庭や地域の養育力がなくなってきたからというのは、現実としてあるのではないかと考えていますので、こういう事を頭に入れて、そういう発言もあるということを理解して教育していく必要であるのではないかと考えておりますので、またいろいろなご意見があったら、教育委員会に伝えていただいてもいいし、学校の先生に直接言っていただいてもいいので、ディスカッションすることが大事だと思いますので、よろしくお願いします。

あと、愛教大の鈴木先生にもちょっとご意見いただきたいなど。

(鈴木委員)

ここ10年幼稚園も、保育園も、小学校も悩んでいる、いろんなことを考えていると思います。ただ幼児教育は小学校に行くための準備をしているわけではない。厳しい言い方をすれば、小学校に行く準備教育をしている訳ではなくて、幼児によつての発達に見合っ

たその時に最も必要なことをここでする、保育支援とか、小学校と同じような、文科省や厚生労働省が出す施政に則って、本来していく、公立であっても、民間であっても、園に独自性はあっても、基本的に幼児教育は国が目指すところというのは、私は共通したものを持っているというスタンスでやっています。その中で当然、おっしゃったように環境通した教育とか、遊びを通した教育とか、それは学ばないといったことではなくて、学びをこの時代にどう作っていくか、それが私たちは遊びとか、あるいは認知的な能力を支える非認知能力を身に着けることで、座る練習をしなくても、勉強したくなるという子たちにしたいという理想は持っています。いろんな発達では悩み苦しんではいますし、小学校から見たらもう少し幼稚園、保育園で何とかしてという声は聞こえますが、国際的にいきますと、こういう雰囲気ができる日本というのは東アジア地域の中で勉強をさせて欲しいということを割と言わないというか、国として、教育はこうだといった感じでやっているということをどうやって理解してもらっていくか、どうやって意識を高めていくかが課題かなと思います。いろんな意見を聞ける機会嬉しく思います。ありがとうございます。

戻ってしまうかと思いますがパブリックコメントのところにも皆さん、まずすごい関心があるということが分かりまして、幼児教育に対する姿勢と保育に対する期待というのは、正規の人たちがすごく大きいものを持っているんだなということも、分からせていただきました。統廃合してしまうというので、非常にトップダウンで行われているのではないかと皆さんが思っておられる。つまり、何かを変えるときには、マイナス面しかなかなか見づらいところがあって、くっつけて減らせば、良いことは何もないという感じに見えるだろうというそこを、私たちが考えてきた中で、如何にそうではないということをお伝えられるかという回答をそんな形で書いてもらえるといいなと思いますし、入園の導入というのなんか少し恣意的ではないかというご意見、これも、適正人数なんかに関わって、公立園のこれまでを否定するようなということはイコール主として、幼児教育は政府に対して、後ろ向きなのではないかという危惧を持っておられると思います。地域の方たちは、決してそうではなくて、今のような民間園もあるように、蒲郡市ならではの保育を支えていくために必要な、決して後ろ向きな、主として教育に対して手を引いてしまうことではなくて、今のようなきめ細かに、蒲郡市の現状を捉えて、営業していくことが改善になるというスタンスでやっていくことが、ようやく皆さんに伝わって、細かなご意見は全身善意きちっと取り上げて、満たしていくというスタンスなんですよ、という思いをパブリックコメント回答の時に伝えていって、私たちも理解を深める必要があるなと思います。すみません。元の話からずれて、また元に戻ってしまいました。このパブリックコメントを読ませていただきながら感じさせていただきました。そして、皆さんが強い関心を持ってくださっていること、これを今後生かしていくという必要があるなと思います。ありがとうございました。

(事務局金沢) 先ほど小学校に行くとなかなか座っておれないという子がいるとお聞きしましたが、確かにそうかなと思う想像もつくのかなと思います。ちゃんと保育園でも「お話を聞く時だよ」ということは、いろんな場面で伝えていきます。やはり子どもを育てていく、教育

をするというか育てていくには、お母さんだけではなくて、保育園も皆で育てていくんですけど、やはり例えば、ちょっと我慢しようねとか、スーパーで走り回ったときに、「今ここでは走らないよ」とお母さんは子どもにちゃんと教えるとか、「今はちゃんと話を聞いてね」ということを保育園もしますけれど、やはりご家庭の教育ですかね、そういうところも大事なのかなと思いました。それと学校との繋ぎのあたりなのですが、保育園によって全体的な傾向として、年度末に忙しい中、小学校1年生の様子を子どもたちが見学させていただくような園もあります。学校が近いとか。そういういろんな条件で、そういうことで学校の様子を見る、1年生の様子を見る、給食の時にあの重たい食器を自分たちで運ぶんだとか、学校はちゃんと椅子に座って手を挙げて発言するんだとか、そういうところを少し見て、イメージして行くようにしている。実際に自分が1年生になったときにそれができるかという、別の問題なのですが、少し学校とのその辺の繋ぎができるようにはしております。

(渡辺会長) ありがとうございます。学校教育課長の小澤先生いかがでしょうか。お休みですか。代理の竹尾先生、何かありますでしょうか。

(竹尾代理) 学校教育課の竹尾です。特にありません。

(渡辺会長) 金沢さんや、愛教大の鈴木先生にまとめていただきましたが、本当に小学校と、幼稚園、保育園が連携を密にして子どもを育てていきたいなっていう風に考えています。それから愛教大の鈴木先生が、やはり蒲郡市ならではの保育を作り上げていくって、マイナスではなくて、改善なんだって、それをよく伝えていただいて、良いグランドデザインにさせていただきたいなと思いました。ありがとうございます。もうよろしいですか。話し足りなかったってことはありませんでしょうか。ありがとうございます。それでは事務局さん何かありますでしょうか。

●事務局白井から令和3年度子ども子育て会議の日程案について説明

質疑応答

(渡辺会長) 何かご質問ありますでしょうか。それでは、3年度につきましてはよろしくお願いたします。以上で用意した議題はすべて終了しました。

今年度も委員の皆様方のおかげで何とか、この蒲郡市の支援が充実してきたと思っています。特にグランドデザインができたことが、本当に良かったと思っています。ありがとうございます。次年度も引き続き、ご尽力いただきますようお願いいたします。

●次回の子ども・子育て会議について

(事務局高橋) 次回、5月の会議については、まだ日程が空白になっておりますので、決まり次第速やかにご連絡の方はさせていただきたいと思います。また、会議の方法も原則オンラインでの会議という形に、これから続くのか分かりませんが、来年度もオンラインでの開催とといった形式になっていくのではないかと思います。今日、実際にお越しいただいた方ももし、ご自宅とか職場にオンラインでできるような環境があれば、なるべくオンラインでの参加をしていただきたいなという風に思っております。

(渡辺会長) 少しオンラインの画面が見づらくて、私もどなたが出席されているのか分かりにくいので、もう少し明るくなるといいですね。

今日はオンライン会議も無事に終了することができました。本当にありがとうございました。